



顔晴る企業紹介

藤岡町商工会

佐山和章代表取締役と緊急自動車に指定された大型車両

商工会には自社の事業を通じて地域に貢献したいと「顔晴る」会員さんが多くいらっしゃいます。

今回は、栃木市藤岡町のチャンプグループホールディングス（以下、チャンプグループHD）さんの佐山和章代表取締役（以下、代表）に、これまでの歩みや事業にかける想いなどをお伺いしました。

◇はじめに事業の概要についてお伺いします。

チャンプグループHDは、3社が持つ4つの事業で構成しています。最初に創業した(有)チャンプオートは、自動車販売・修理業とレッカー事業部の2つを展開しており、特にレッカー事業部は、栃木県警はもちろん警視庁、埼玉県警、首都高速、NEXCO東日本と事故車等排除業務協定を締結しています。

2社目の(株)ティ・エイチ・エスは、自動車運送事業、旅客自動車運送業です。「栃木



最初に創業した(有)チャンプオート

市ふれあいバス」の岩舟線、藤岡線を毎日運行しており、地元住民の大切な足となっているほか、大学のスクールバスを運行しています。

3社目の(株)フジオカクリーンワークスは、会社を引き継ぐかたちで一般廃棄物処理収集運搬業などを展開しています。栃木市家庭ゴミ回収事業、浄化槽管理・点検保守事業を行う会社で、いずれも行政と連携しながら市民生活を支える企業グループになりました。

（次ページへ続く）

CONTENTS

- ・顔晴る企業紹介（藤岡町商工会）..... 1・2
- ・商工連通常総会開催..... 3
- ・新会長の紹介..... 3
- ・産業功労者表彰..... 4
- ・県青連、県女性連総会開催..... 4

- ・福田会長 県議会新正副会長と会談..... 5
- ・伴走支援の現場から（那須烏山商工会）..... 6
- ・小規模事業者持続化補助金レポート（益子町商工会）..... 7
- ・商工会からこんにちは（藤岡町商工会）..... 8

■独立創業から企業グループの形成へ

佐山代表は、大学卒業後にトラックメーカー系列の販売会社に就職後、一念発起し独立。自動車販売・修理業の(有)チャンプオートを創業した。当時、ハイブリッドカーが普及し始め、「車の技術革新は著しいが、事故は減らない現実がある。困っている人々を助けられるような仕事をしたい」という思いが強くなった。その原点は、大学生時代に経験した阪神・淡路大震災のボランティア活動で「自分の非力さと災害対策の重要さ」を痛感し、「自分には何ができるか、社会には何が必要か」を考えさせられたことにある。その問いに応えるべく、レッカー事業に力を注ぎ始めたことが企業グループ形成の始まりであった。

■災害から地域を守る

しかし、災害対策に寄与するには、それぞれの会社の経営を安定させ、社員が安心して働ける体制を確立することが必須であった。グループ3社の経営力



災害時のヘリポートとしても機能する防災センター

強化に心血を注ぎ、ようやく、その想いを実現できる体制になりつつある。

災害発生時のグループの動きは次のとおりだ。まずは、行政機関との協定に基づき(株)ティ・エイチ・エス所有の大型バスで被災者を避難場所に移動させる。同時に(有)チャンプオートのレッカー事業部が、警察と連携し事故車等排除業務を実行する。そして(株)フジオカクリンワークスが、回収されたガレキなどの災害廃棄物処理・運搬するという流れだ。広大な敷地に緊急自動車指定車両の基地、給油設備等を完備した防災センターも整

備しており、既に実績もある。

令和元年東日本台風(台風19号)の際には、水没した車両の排除処理台数は4日間で730台にのぼり、翌日には大平町地域の主要道路を通行可能にした。佐山代表は「平成27年台風18号での車両の排除処理台数は、3日間で160台だった。もったいなかったはずだと考え、体制を大幅に改善し、その成果が現れた」と常に災害に備える姿勢を崩さない。

■藤岡町の未来のために

チャンプグループHDDの従業員の9割は地元出身者であり、グループ全体で雇用創出に大きく貢献している。



学童クラブの子供たちと共に

さらに歩みを進めている。ある時、佐山代表は卒園した幼稚園が閉園すると聞き、地域の危機だと感じた。話し合いを重ねた結果、学校法人の理事長に就任することで園の事業を引き継ぐ決意を固め、必要な資格を得るために大学院へ入学。論文を書き上げてようやく認可を受けた。「学校法人陽光学園ひまわり学童クラブ」を設立し、今では塾も併設され100名近くの児童が通い、明るい声が響く。

また、市から指定管理業務を受け、渡良瀬遊水地が一望できる大浴場施設「渡良瀬の里」の施設管理業務も開始した。憩いの場に加えて経済効果も図れるような仕掛けを準備中だ。さらには、惜しまれながらも閉店してしまった洋菓子工房ロブノールを、「セ・シユエット」として生まれ変わらせた。確かな味と高い技術を受け継いだケーキを求め、多くのお客様が来店している。

■“あるもの”は残し、“ないもの”は創りたい

新たな挑戦を続ける佐山代表は「藤岡町にあるものは残す、



これまでの貢献が認められ表彰を受けている

ないものは創る、という気持ちです。安心して暮らせる、そして地域が賑わうような準備を続けたい」と熱い眼差しで語る。その原動力は、生まれ育った藤岡町を良くしたいという一心だ。「市民サービスを提供する企業グループとしての責任があります。これからは次世代に会社を引き継ぐ準備を進めたい」と、はつらつとした笑顔が藤岡町の未来を明るく照らしている。

チャンプグループHDD
代表取締役 佐山和章

(有)チャンプオート連絡先

住所…栃木市藤岡町藤岡2645
電話…0282-61-2300

急激な経営環境の変化に対応すべく 『事業環境変化対応型支援事業』を推進



挨拶する福田会長▶

商工連第62回通常総会

5月30日、ホテル東日本宇都宮において、商工連の第62回通常総会が、福田富一知事、佐藤良典議会議長をはじめ、関係機関や経済団体の代表を来賓に迎えて開催された。



▲議長を務める石川理事
(市貝町商工会)

総会の冒頭、福田会長は「原材料やエネルギー価格の上昇、賃上げへの対策、インボイス制度の導入などにより、中小・小規模事業者は様々な対応が求められている。これを受けて、商工会は、国による『事業環境変化対応型支援事業』を重点的に推進し、会員事業者が急激な経営環境の変化にいち早く対応できるよう、引き続き支援を強化していく」と力強く語った。

役員の選任

理事



小林 信作
(県青連)

告及び収支決算など6議案を慎重審議した結果、すべて原案どおり可決決定された。

役員の補充選任では、深津晃理事(前県青連会長)の辞任に伴い、新理事に小林信作県青連会長(壬生町)が選任された。任期は令和6年5月30日までの残任期間となる。

終了後には、アクションプランと会員加入促進運動の成績

新会長が誕生

那珂川町



ひろ 益 弘
かず 子 弘

(株)関東フーズ(食肉卸売業)
平成25年から平成28年、令和元年
から令和3年 理事
令和3年から副会長

が優秀な商工会に対し表彰が行われた。

令和4年度事業総括

一、コロナ禍克服のための中小企業・小規模事業者への伴走型支援の強化

各商工会で伴走型小規模事業者支援推進事業による事業計画等の策定支援が進み、1128件の実績となった。

新型コロナウイルス感染症に係る施策の活用支援では、無利子・無担保融資制度595件、事業復活支援金3705件など、計1万2571件を支援した。事業承継支援では、日本政策金融公庫と『事業承継支援に関する覚書』を締結するとともに、栃木県事業承継・引継ぎ支援センターと体制の構築に努めた。事業変化対応型支援事業では、相談窓口として22商工会及び商工連に38名の相談員等を設置

し、支援体制の強化を図ったほか、事業所向けの講習会や要望に応じた専門家の派遣を実施した。

二、中小企業・小規模事業者のリスクマネジメント支援と事業再建支援

事業継続力強化支援計画は、33商工会の全てが計画認定となり、災害対応力の強化に繋がった。

三、コロナ終息を見据えた中小企業・小規模事業者の販路開拓支援

全国連が主催する「ニッポン全国物産展」、「全国おつまみフェス in グラスタ東京」、「冬のすごもりフェア in 立川ミネ」の出席を支援した。

四、中小企業・小規模事業者の経営環境の整備

中小企業・小規模事業者支援策の大幅な拡充及びアフターコロナを見据えた需要喚起策の実施と、円安や原油・原材料価格高騰に対する支援策の拡充について、国・県へ施策の要望を実施したほか、全国連とともに「大型経済対策の早期実施に係る要望」を行った。

栃木県産業振興功労により表彰

加藤 有^{たもつ} 会長（氏家商工会）



氏家商工会
加藤 有 会長



栃木県民の日の6月15日に県公館で行われた「栃木県各種功労者及び優良団体表彰」において、氏家商工会の加藤有会長が産業振興功労者として表彰された。

氏は昭和63年から氏家商工会の理事、平成26年には会長に就任、令和3年からは商工連監事として活躍されている。

理事に就任後、従来の商店街と大型商業施設の均衡ある発展が課題と捉え、商工会独自で調

査研究を実施。様々な意見を市に提言してきた。さらに、氏家地区では小麦の生産が盛んであることに着目し、関係各所と連携しながら、特産品となる「氏家うどん」を商品化した。PR等にも奔走し、商工会として全国初の「地域団体商標登録」を取得。市の「さくらブランド」第1号としても認証された。

商工会の活動等を通して、地域の商工業の振興と発展に寄与したことが認められた。

商工会の福祉共済



加入者の皆さまへ

新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが、「5類感染症」とされたことに伴い、令和5年5月8日より、「みなし入院」がお支払い対象外となりましたので、ご承知おきください。

更なる組織強化のため事業の推進に尽力



挨拶をする三森県女性連会長

県女性連第58回通常総会

5月10日、県女性連（三森節子会長）は第58回通常総会をホテル東日本宇都宮で開催した。

三森会長は、「消費が戻りつつある一方で、私たちを取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況にある。『地域を支える女性の経済団体』として、今後も更なる組織強化を図るべく、積極的に事業を推進していく」と挨拶した。

総会では、議長に足尾町の神山洋子部長を選出し、事業計画など3議案が慎重に審議され全て原案どおり承認された。

令和5年度の事業は、関東ブロック商工会女性部連合会連絡協議会・交流研修会及び女性大学・商工会女性部全国大会への積極的な参加、女性部リーダー等セミナーの開催などが主となり、更なる組織強化を図るべく各種事業に取り組む。

新会長に小林信作氏（壬生町）



深津前県青連会長（左）から小林信作新県青連会長（右）へとバトンが託された

県青連第56回通常総会

県青連は5月9日、第56回通常総会をホテルニューイタヤで開催した。

議長に石橋の大関貴志部長を選出し、令和5年度年度事業計画や収支予算、任期満了に伴う役員の選任など4議案が慎重に審議され全て原案どおり承認された。

任期満了に伴う役員の選任では、会長に小林信作部長（壬

生町）が選任、副会長に的場雄大部長（佐野市あそ）、山崎純部長（益子町）、郡司和彦部長（西那須野）が選任され、新たな執行部体制が誕生した。

令和5年度の事業では、各種研修等を展開するなか、特に部員増強運動を重点的に推進する。各商工会では、令和3年度より加入促進運動を実施しており、青年部において強化を図っていく。

福田会長 県議会の新正副議長と会談



(左から) 佐藤議長、福田会長、関谷副議長

6月12日、商工連の福田徳一会長は、新たに選出された佐藤良県議会議長（壬生町）と関谷暢之副議長（那須塩原市・那須町）を訪ね、商工会地域の現状などについて情報を交換した。両氏は、「商工会を支援する県議会議員の会」の所属議員として、中小企業・小規模事業者の支援と商工会地域の振興発展に尽力されている。

会談では、3年以上続いたコロナ禍の影響に加え、エネルギーや原材料コストの上昇による影響も懸念されるため、引き続き、

中小・小規模事業者への支援が必要という点で意見が一致した。佐藤議長は壬生町商工会青年部に所属する現役の部員であり、関谷副議長は西那須野商工会青年部の部長を務めたこともあるため、商工会の活動に深いご理解を頂いている。若手経営者や後継者に期待することなども話題となり会談は終始和やかな雰囲気で行われた。

福田会長は、「商工会地域の経済振興のため、今年度も地域に密着した事業活動に全力を挙げて取り組む」と引き続きの連携と支援をお願いした。

熱中症を防ごう！

～中小企業の事業主、安全・衛生管理担当者、現場作業員向け～

働く人の今すぐ使える**熱中症ガイド**

職場における熱中症予防



または、こちらを
ご覧ください▶



栃木県労働局・労働基準監督署

次回締切は令和5年9月7日(木)

小規模事業者持続化補助金のご案内

小規模事業者持続化補助金（＝持続化補助金）とは、小規模事業者が自社の経営を見直し、自らが持続的な経営に向けた経営計画を作成した上で行う**販路開拓やその取組と併せて行う生産性向上の取組を支援**する制度です。申請をお考えの方は、最寄りの商工会がサポートいたします。ご相談ください。

1. 対象者

商工会地区で事業を営む下記に該当する方

商業・サービス業（宿泊・娯楽業除く）	常時使用する従業員の数 5人以下
宿泊業・娯楽業	常時使用する従業員の数 20人以下
製造業その他（一定要件を満たす特定非営利活動法人）	常時使用する従業員の数 20人以下

2. 活用事例

～こんなことに使えます～

〈事例1〉商品・サービスの広報を目的としたチラシ・カタログの外注や発送

〈事例2〉高齢者・乳幼児連れ家族の集客力向上のための高齢者向け椅子、ベビーチェアの購入

〈事例3〉新たなサービス提供のための製造・試作機械の導入（特殊印刷プリンター、3D プリンターを含む）

3. 補助率・補助上限額

※通常枠、特別枠のいずれか1つの枠のみ申請可能です。

類 型	通常枠	通常枠				インボイス特例
		賃金引き上げ枠	卒業枠	後継者支援枠	通常枠	
補 助 率		2/3 (賃金引き上げ枠のうち赤字事業者は3/4)				50万円 (インボイス特例の要件を満たす場合は、左記補助上限額に50万円を上乗せ)
補助上限	50万円	200万円				

伴走支援の現場から

那須烏山

有限会社 大森紙器

住所 那須烏山市野上663-16
TEL 0287 (84) 1313

昨年、中小企業庁は、事業所支援の新しいモデルとして「経営力再構築伴走支援モデル」を打ち出した。今号では、この新しいモデルに基づいて那須烏山商工会が支援をさせて頂いた(有)大森紙器さんと、担当した秋葉主任の事例を紹介する。

■商工会の新たな支援モデル

「経営力再構築伴走支援モデル」とは、経営者と丁寧な「対話と傾聴」を繰り返すことで、経営者と支援者の両者が「本質的な課題」に気づき、納得(腹落ち)したうえで課題解決のための取り組みを始める、という支援の考え方や進め方という。支援モデルのノウハウを得よう

と、商工連では半年間にわたるセミナーを開催、(有)大森紙器さんと秋葉主任に参加を頂いた。

■業歴100年を超す老舗企業は事業承継の時期を迎えた

(有)大森紙器は菓子用の貼箱を中心に、装飾品用など様々な箱を製造する創業100年を超える歴史ある企業だ。大正時代に初代社長が東京で修行・独立後、故郷である烏山にて開業。那須烏山市近隣はもちろん、県内全域に取引が広がっている。また、鮎の産地として有名な那珂川沿いに立地しているため、古くから川魚用の箱も手がけ、地域産業にとっても欠かせない企業だ。

三代目の川堀治社長は、父の病により、大学卒業と同時に家業を継ぐことに



厚紙を箱の展開図に加工する陽平氏

なったという。「入院先の父から箱作りの技術を伝授してもらい、徹夜で箱を製造し、昼間は配達と病院に行く日々が続いた」と、当時の苦労を回想する。

こうして守り抜かれた技術が、4代目となる陽平氏と従業員に受け継がれようとしている。陽平氏は大学を卒業後、大手企業に勤務した経験を持つ。「いまは、やってみようと思っただけをすぐにトライできる事にやりがいを感じている」と、試行錯誤を重ねながら、前職で得たノウハウを自社に注いでいる最中だ。

■将来に向けた課題を商工会と一緒に考える

支援の成果について陽平氏は、「対話を重ねたことで、当社がどう時代を乗り越えてきたのか、そして“強み”や“経営環境”を分析できた。そのうえで、

いま努力すべき事と将来の課題を整理することができた」と話す。さらに、「色々な会社を見ている商工会職員の意見には重みがある。秋葉さんに相談することで、物事を多面的に見ることができた。家族との話し合いだけでは、ものの見方や考え方が無意識に固定化されてしまうし、自分ではマイナス面だと思っていた事柄にもプラスの側面があるなど、新たな知見を得ることができた」と語った。

■企業の想いを共有し共に歩む

秋葉主任は「対話と傾聴」から得られた、新たな気づきや課題、今後の方向性などを1枚の「企業力ランクアップシート」(事業計画書)にまとめ上げ、お互いがいつでも確認できるようにした。トライした結果の成功、或いは上手く行かなかった要因のチェック(分析)には、事業計画書との対比が欠かせない。「偶然上手くいった“では次に繋がらない。

早速取り組んだ作業環境の改善は、従業員の意見を取り入れ、機械の配置替えも同時に着手したことで生産性向上にも寄与することができた。



和紙が貼られた色鮮やかな貼箱

今後は、B to C市場の開拓に向けて新商品を開発していきたいという。陽平氏は「トライする前に相談できる人がいる事は安心感にも繋がる」とも話してくれた。これからも2人は、経営に関する内外の事などについて「対話と傾聴」を重ねながら、トライ&チェックをしていくことだろう。

取材後記「情報共有」のあるかたち

30年以上も前に商工会の青年部長を務めていた川堀社長。息子さんである陽平氏が帰郷したことを秋葉主任に伝え、訪問のきっかけを作ったのは、当時青年部を担当していた商工会の堀江事務局長だった。長年にわたるお二人の信頼関係のなかで、支援させていただく側の承継も始まっている。



左から、川堀治社長、川堀陽平氏、(有)大森紙器の製品を持つ商工会の秋葉主任

小規模事業者が商工会と
一体となった取組み

小規模事業者持続化補助金レポート

益子町

たちばなや時計店

住所 芳賀郡益子町益子980
電話 0285-7212230

■御社の概要について

昭和13年に父が益子町で開業し、今年で85年目を迎えます。時計の修理・販売や眼鏡、補聴器の販売などを行っていただきます。東京で修行をした後、益子町に戻り、父の元で技術を学びながらお店を継ぎました。結婚後は、お客様との会話が大好きな「おしゃべり係」の妻と共に、二人三脚で経営しています。

■お客様と心を通わせたい

年に2回、既存のお客様



右から茂呂博代表、妻の和子氏、商工会の加藤（裕） 主事

に向けた手作りのニューズレターを送付しています。「たちばなや通心」と名付け、日常の出来事から季節の事柄などを掲載し、発行から今年でちょうど20年になります。

作成のきっかけは、商工連の「ワクワク系の店づくり」セミナーでした。その後、益子町商工会の職員からも教えてもらい継続してきました。お客様からは絵手紙や採れたての野菜が届くなど、温かい交流が続いています。ありがたいことに、「たちばなや通心」を楽しみにしているという声をいただきます。

■どのような取組みをされましたか

持続化補助金の活用は2回目です。「コロナ禍で何もできないよりは、何かをやってみよう」と申請を決意しました。今まではメーカーが用意したチラシを配布していましたが、機器の紹介が中心でお客

様の目に止まりにくいものでした。補助を頂けるのであれば「もっとお客様に伝わる内容で作成したい」と妻からの提案があり、チラシから作ることを決意しました。

商工会の加藤（裕）さんが親身になって相談にのってくださり、申請書の書き方はもちろん、伝えたいサービス、デザイン、PR方法といったマーケティングも支援して頂きました。表面には時計修理、取扱商品、企業概要のほか、私たち2人の顔写真を掲載し、裏面には補聴器相談会の開催情報を掲載しました。新聞折り込みのほか、益子町以外にも広く当店をPRしようと、近隣市町を対象に6万700

部が発行される地元紙の真岡新聞に広告を3回、記事形式を1回掲載しました。

■新たなニーズを発掘

チラシや真岡新聞を見た方から、時計の修理依頼が多くありました。中でも「親の代からの大切な柱時計」「新築祝いに頂いた記念の柱時計」「大型で移動が大変な柱時計」など大切な柱時計をどこで修理したら良いのか悩んでいたとの声を多く頂きました。再び時計が動き出しお客様が笑顔になった様子を見て、私達も喜びを感じたとともに、柱時計

の修理というニーズを見い出すことができました。

また、「たちばなや通心」の読者からもご連絡やお声を頂き、コロナ禍のなかでも私たちが頑張っている姿を伝えることができました。支えてくださるお客様がいっぱいやるのが実感できて、とても嬉しく思いました。

■補助金を活用していかがでしたか

商工会の職員さんが申請から事業遂行後も親身になってサポートしてくださり、大変お世話になりました。現在も、チラシは自費で継続しています。これからも、お客様とのつながりを大切にしながらお店を営んでいきたいと思っています。

商工会と検討を重ねて作成したチラシ

たちばなや通心 2003年創刊号

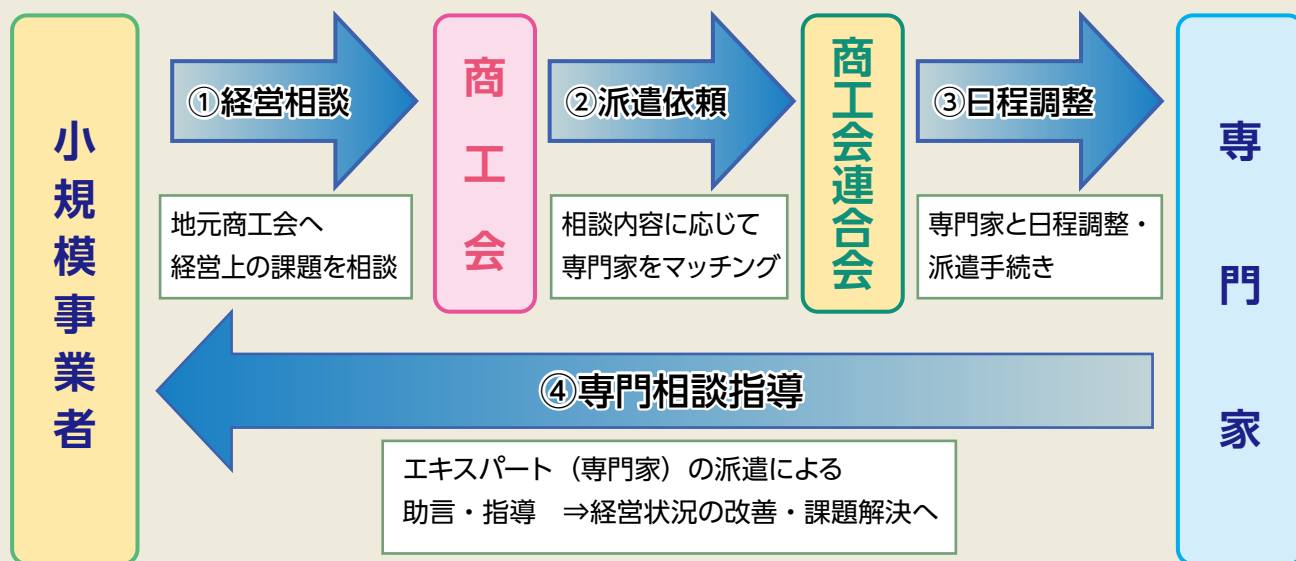
商工会の専門家派遣制度【エキスパートバンク】のご紹介

専門家派遣制度（エキスパートバンク）では、小規模事業者の経営課題や相談内容に応じて、商工会と商工会連合会で選定した専門家が直接、支援させていただきます。

専門家の立場から、より具体的かつ実践的なアドバイスを行い、課題解決を図ります。

相談は無料、相談上知り得た秘密は厳守いたします。お気軽にご相談ください。

【ご利用の流れ】



■主な専門家：中小企業診断士、税理士、社労士、弁護士、ITコーディネーター、デザイナー 等

■活 用 事 例：経営計画を策定したい／自社や取扱商品のロゴを作りたい／生産性を上げたい／
IT・DXに対応したい／販路を開拓したい／事業を譲りたい・継ぎたい 等

栃木市藤岡町は栃木県最南端に位置しており、渡良瀬遊水地が地域のシンボルとなっています。ラムサール条約の登録湿地であり、ハート型の湖を有する遊水地には、国の天然記念物であるコウノトリが繁殖し、大きな注目を集めています。当商工会では、き



▲後列左から、川俣智和主任、荒井好恵主事、野中繁登課長
前列左から、山根広大主事、伊藤邦夫会長、松本静男局長

皆様にも、商工会をもっと身近に感じていただけるよう、県内各地の商工会をご紹介します。

商工会からこんにちは

藤岡町商工会

商工会では新規会員を募集しています

是非、お仲間をご紹介ください。
詳しくは、最寄りの商工会までご連絡ください。

「初市祭」の主催をはじめ、産業祭や十八年ぶりに復活する渡良瀬遊水地花火大会（令和五年十二月二日（土））等にも協力し、地域経済活性化に寄与します。今年も栃木市商工経済団体連絡協議会の「キャッシュレス登録事業者」によるスマホ・カード利用でポイント付与事業を周知・推進します。

め細やかな支援をモットーに、事業所の発展に寄与し続けたいと思っております。